

JAいけだ CREATION

今月号の表紙写真は、女性部
道外研修旅行の水前寺公園（熊
本県）での集合写真です。詳細
は7ページをご覧ください。



CONTENTS

- * 平成25年の新春を迎えて
- * 年頭にあたり
- * 24年産豆類生産状況
- * 青果物説明会を開催！
- * 21NEWS アラカルト
- * JAネットワーク
十勝の動き
- * 今冬、ご家庭でも
節電対策を！
- * 指導チーム通信
- * 日本農業新聞
- * 畜産部通信
- * 今月の1枚
- * 理事会の動き
- * 編集後記

2013.

1
JANUARY
No.037



平成25年の新春を迎えて

十勝池田町農業協同組合

代表理事組合長 鈴木雅博

平成25年の新春を迎える組合員の皆様はじめご家族の皆様に謹んで新春のお慶びを申し上げます。また、農協事業に深い「理解」と「協力を戴き御礼申し上げます。

昨年平成24年は、春の降雨量が多く馬鈴薯、甜菜の植え付け、豆の播種など春作業の遅れや湿害等の影響がありました。また9月の気温は平年よりもう一度高い10月からの降雨量は平年の3倍、11月には大型低気圧による降雨など、播種時期から収穫期まで苦労の多い年がありました。そのような気象条件でありましたが、全面積に切り替えて2年目のきたほなみ小麦ですが、

売り渡し数量で10アール627kg製品歩留97・3%と過去最高の成績を収めることが出来ました。豆類は平年以上の作柄でしたが、高温のため2次生長や色流れも発生致しました。甜菜は秋になつても最低気温が下がらず糖分取引が始まった1986年から最も低い平均糖分となりました。今後は温暖化による低糖分対策として基準糖分の見直しを早急に求めてまいります。

耕種部門合計では、前年比111・1%の粗生産額と試算されております。高温と多雨の秋収穫時期であり作業の遅れが心配でありましたが、降雪前にすべての黒毛和牛の飼養農家戸数が

十勝で一番多いのは池田町であります。今後の和牛生産振興とさらなる飼養技術向上に繋がる出場であります。

新自由主義という市場原

理主義の仕組により格差の拡大や地域社会の疲弊や社会不安が問題となり、さらには東日本大震災や東電原発被害で故郷地域を奪われた悲劇から、「助け合い」や「絆」という価値観の大切さを再認識する事が求め加により前年比104・9%となりました。黒毛和牛では長崎県で開催されました第10回全国和牛能力共進会、肉牛のオリンピックとも言われる5年に一度の全国大会に北海道代表として

から取り組むことになります。地域振興計画の作成と実践、農協の事業評価制度（農協の通信簿）。年間3回開催されます地域懇談会、そして各生産部会において、

さらには青年部、女性部と

の意見交換を含め人的な交流と相互理解、組合員各位の積極的な参加による事業目標の推進は大切な礎であります。今後とも農協事業に組合員各位のご理解とご協力を願い申し上げます。皆様のご健勝と流した汗が稔るような豊穣の年となりますようご祈念申し上げ、新年にあたつてのご挨拶と致します。





年頭にあたり

北海道農業協同組合中央会

会長 飛田 稔章

組合員をはじめJA役職員の皆様方が、希望に満ちた平成25年の新春をご家族とともに迎えられたことを心からお慶び申しあげます。昨年の北海道農業は、一部地域での豪雪の影響などにより農作業の遅れなどがありましたが、その後比較的大候に恵まれ、降雹被害や台風による被害など)によつて地域や作目にによる差はあるものの、組合員・JAの努力が報われ総体的には豊穣の出来秋となりました。

さて、平成23年の東日本大震災から2年が経とうとしておりますが、復興への道筋は決して容易なものとはなっておらず、また原発事故の収束にも日途が立たず、全国の農業者や消費者は不安を抱えています。」

Aグループは、被災地の復興に向けてあらゆる支援を続けていくこと、安全・安心な農畜産物を安定的に消費者の皆様にお届けすることに、今こそ協同組合の精神である「絆」を大切にす
る価値観のもとで、総力を挙げて取り組むことが必要です。

なお、今冬は電力不足の可能性から、北海道では今夏の取り組み同様に7%以上の節電目標が設定されました。もし万が一にも計画停電となつた場合には相当の支障が生じることが危惧される」とから、JAグループ北海道として節電に取り組んでいく必要がありますので、皆様方のご理解とご協力をお願いいたします。

さて、本年は『協同活動も農業生産を担う多様な担

い手の確保・育成、農業生産に意欲を持つ取り組める農業所得の拡大、食の安全・安心対策の実施と環境に配慮した農業の実践に取り組むことを決議しました。

一方、「次代を担う協同の実践」では、JAグループ北海道の組織・事業・経営において、JAの経営を担う次世代の担い手の正組合員加入を促進し、次代に向けてともに協同活動に取り組むこと、地域におけるライフラインの一翼を担うものとして、総合事業体の意識高揚を図り総力を結集して決議事項の実践を図ろうとするものです。

大会決議事項の「持続可能な北海道農業の実現」では、日本の食料基地北海道として、安全・安心な農畜産物を生産し、安定的に消費者に提供するという使命を果たすために、持続可能な北海道農業の実現に向け、必要な農業政策を国に求めていくとともに、自ら関係機関と連携の上、理解

でつくる持続可能な農業と地域社会』を開催した第27回JA北海道大会決議事項の実践初年を迎めます。本大会は向こう3か年間のJAグループ北海道のめざすべき方向を決定し、これを内外に表明するとともに組合員ならびに役職員の意識高揚を図り総力を結集して決議事項の実践を図ります。

また、TPP交渉参加断固阻止に関しては、多くの

大会決議に基づく基本目標の具体的成果に向け、JAグループ北海道の総力を挙げて取り組みましょう。今後、景気の低迷や農業貿易交渉等の進展によっては、農業への影響が大きくなる懸念されますが、全道の組合員の皆様をはじめJA役員が『一人は万人のためには、万人は一人のために』といふ協同組合の理念をよりどころにして、JAへの結集を強め協同運動を強力に展開することにより、この苦境を打開し未来を切り開くものと確信しております。

本年も災害がなく、豊穣の秋を迎えることができ、北海道農業の発展と成長をめざし飛躍の年となります。よう心から祈念申しあげ、新年にあたつてのご挨拶といたします。

生育状况

表1 平成24年度池田町作況ほの生育経過
(上段24年、下段平年)

作物	出芽始	出芽期	開花始	開花期	成熟期
大豆	5/29	6/02	7/23	7/24	10/06
	5/31	6/02	7/23	7/25	10/07
小豆	6/02	6/03	7/27	7/29	9/10
	6/05	6/06	7/29	7/31	9/18
金時	6/09	6/11	7/15	7/16	9/06
	6/09	6/11	7/14	7/16	9/05
手亡	6/08	6/10	7/23	7/25	9/08
	6/07	6/10	7/25	7/28	9/17

平成24年は5月の天候、圃場条件にも恵まれ、播種作業は各品種ともに順調に行えましたが、出芽してからの1ヶ月は一転して低温、寡照となり初期生育がやや停滞しました。その後7月から的好天により一気に作柄は回復し開花を迎える7月下旬には平年を上回るまでの生育となり

表2 平成24年度池田町作況ほの茎長(cm)及び着莢数(個数/m²) (上段24年、下段平年)

莖長	6月15日	7月1日	7月15日	8月1日	8月15日	着莢數	8月15日	9月1日	9月15日
大豆	7.9	14.5	34.8	72.1	81.5	大豆	454.2	559.8	568.9
	5.8	13.2	28.8	53.4	68.3		194.4	479.3	482.4
小豆	3.0	4.2	10.1	26.3	41.9	小豆	124.9	310.9	358.0
	2.5	4.8	10.2	21.2	41.7		76.3	251.7	265.1
金時	5.8	9.0	30.0	53.5	53.5	金時	162.0	144.9	135.0
	4.2	11.8	29.3	43.0	44.3		137.0	118.3	117.2
手亡	4.4	6.6	21.0	40.9	41.8	手亡	170.8	173.6	197.7
	3.5	6.4	27.9	42.3	44.6		106.5	135.8	142.4

表3 24年産金時発生比率（上段21年 下段23年）

区分	2格	TK(軽色流)	TN(色流)	発芽粒など
大正金時	35.7%	31.1%	26.2%	7.0%
	5.6%	31.6%	51.8%	11.0%
福勝金時	45.7%	24.8%	19.0%	10.5%
	15.5%	24.6%	38.2%	21.7%
金時平均	40.7%	28.0%	22.6%	8.7%
	10.6%	28.1%	45.0%	16.3%

期を迎えるましたが、9月上旬の降雨により23年産ほどではないものの金時の品質に影響が出ました。この9月からの天候は小豆にも影響を与え、莢数の多さから高収量が期待されていましたが、温度が高いままで堆積したために早上がりで小粒傾向が強まり、平年並み進して収穫しました。

平成24年産の豆類生産について生育状況や地区毎の実績をお知らせ致します。

ました。手亡
は23年産の様
な発芽、腐れ
の発生も少な
く平年をやや
上回る収量、
大豆は収穫時
期の降雨によ
り作業が遅れ
ていた産地も
あつたようだ
すが、当地区
については適

とをお礼申し上げます。誠
にありがとうございました。
24年産の金時の買入は等外
品では23年産と同様に規格
発生比率に応じた特例の買
入方法とさせて頂きました
が、今後も生産者の皆様の
所得の向上を目指し、有利
販売に努めることはもとよ
り、安定生産に繋がるため
の契約栽培の拡大に向けて
取組んで参りますので、皆
様のご協力をよろしくお願
い申し上げます。

期収穫が行え平年並みの収量となりました。

地区別生産状況

表4 平成24年産 地区別豆類収穫量

(表10a)

品目 地区名	大正 金時	福勝 金時	エリモ 小豆	きたの とめ小豆	きたろまん 小豆	白小豆	大納言 小豆	絹手亡	姫手亡	福白 金時	光黒 大豆	普通 大豆
清見 1	3.0	3.1	4.0		4.3			3.3	4.2	1.9		
清見 2	3.6	3.6	4.5	3.6				4.5	4.2	1.8	6.1	
昭栄南	3.1	3.6	4.6	4.1	4.0		4.0				4.6	
昭栄栄	3.2		4.0					4.8				
昭栄北	3.4	2.7	4.5	5.0			4.0	4.5		2.2	5.0	2.5
東台 1	3.3	3.5	4.6	5.3	5.0			4.9			4.0	
東台三愛	2.5	3.3	4.6								5.7	
東台幹線	2.2	2.9	4.7	4.5	3.9	3.0		3.6			4.7	
川合 2	4.0	4.3	5.0	5.6			4.4	5.2	6.1	3.8		
様舞		3.4	3.5					4.9				
池田地区計	3.1	3.4	4.4	4.7	4.3	3.0	4.1	4.5	4.8	2.4	5.0	2.5
利別	3.5	3.0	4.4	3.3	2.2		4.5	5.3	6.4		5.1	
川合	3.8	3.7	5.7						5.3			
千代田東	3.4	3.1	4.0	5.7			3.4	4.9	4.7			
千代田南		3.6	4.4	4.4			6.1	4.9		2.7	2.8	
千代田北			3.3	3.6			3.7					
豊田 1	3.5	3.2	3.6			2.5	3.8	3.9		2.1	5.0	4.3
豊田 2	2.5	3.3	4.1			2.2		5.0			5.1	
青山		4.5	3.9	5.2	2.8		4.7	4.3			5.2	
利別地区計	3.3	3.5	4.2	4.4	2.5	2.4	4.4	4.7	5.5	2.4	4.6	4.3
合計	3.2	3.4	4.3	4.6	3.4	2.7	4.4	4.6	5.2	2.4	4.8	3.4
最高	4.0	4.5	5.7	5.7	5.0	3.0	6.1	5.3	6.4	3.8	6.1	4.3
最低	2.2	2.7	3.3	3.3	2.2	2.2	3.4	3.3	4.2	1.8	2.8	2.5

※廃耕となった圃場の面積も含んで計算しています

表5 道產豆類需給見込

品 目	24雑豆年度		25 雜 豆 年 度					
	次期繰越	在庫量	見込収量	商品化量	期 首	年間消費	次期繰越量	在庫量
小 豆	432,600俵	5.8ヶ月	4.3俵	992,900俵	1,425,500俵	890,300俵	535,200俵	7.2ヶ月
大 手 亡	35,800俵	4.7ヶ月	4.9俵	117,800俵	153,600俵	92,200俵	61,400俵	8.0ヶ月
赤系金時	84,500俵	6.2ヶ月	3.1俵	161,100俵	245,600俵	162,700俵	82,900俵	6.1ヶ月
光黒大豆	35,000俵	4.3ヶ月	4.2俵	150,900俵	185,900俵	98,000俵	87,900俵	10.8ヶ月

以上の需給状況から、25年につきましては全品目共通で作付面積の維持拡大が求められています。

◆黒大豆：安定した消費量ではあるものの、年産による作柄の変動が大きい品目です。

△金時・色流れ・発芽・腐敗粒の発生により小袋、煮豆用途向け規格品の供給が不足しています。特に色流れ品が次期繰越し品の中心規格となっています。

◇手亡・発芽・腐敗粒の発生により白餡向け規格品が供給量不足となつています。

供給に向けた作付面積の確保が求められています。

状況は続いていますが、現在の作付では凶作時のリスクが大きくなりかえり、安

く小豆類・葛粉の東二月
途向け消費の減退と加糖餡
の輸入量増加により厳しい

雑豆の需給状況

農産部

青果物説明会を開催!

「池田71%、
十勝管内平均53%」

「これは経営に占める小麦と豆類を合計した作付割合の当JAと十勝平均の比較です。この71%という割合に小麦と豆類に作付が集約している現状が顕著に表れています。」

将来の経営形態の変化や田まぐるしく変化していく農業情勢に対応するためと、いうのは若干教科書的な開催目的にはなりますが、まずは「何を作つたら儲かるのか?」というシンプルなテーマを掲げ、当JAで現在取り組んでいる青果物の生産状況や販売活動、部会の取組を紹介し、新しい仲間づくりのスタートを目指し説明会を開催するに至りました。

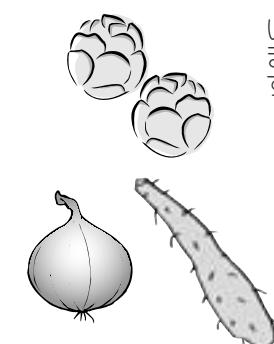
第一弾として開催した今回の説明会ではネバリスター、たまねぎ、ゆりねの3作物を紹介しましたが、まず農産部から作物の概況の説明



パワー・ポイントを使った説明

融部から融資商品の紹介を行いました。
質問や意見交換も行うことができ、良い内容だったと

あります。それ開催前にご案内いたしますので、奮ってご参加頂きたいと思います。



作物についてアピールする棚澤部会長

参加者からも大変有難い言葉も頂いた説明会となりました。しかし、いかんせん当日の参加者は3名でした。各部会代表者からも「少ない参加者にめげずに」という声があがり、

を行い、ついでそれぞれの部会から代表者(長いも部会・棚澤部会長、たまねぎ部会・塙谷副部会長、ゆりね部会・福田部会長)に出席して頂き、生産者の視点から作物の特徴や作業の詳細、部会活動についてPRをもらいました。また、関連する話題提供として営農部から人材派遣の概況、金

当初は本説明会の資料を広報と配布して終了する予定でしたが、1月に再開催することと致しました。また第二弾として馬鈴薯、カボチャ、に

女性部

道外研修旅行

去る、11月26日（月）～29日（木）にかけて、女性部では九州方面へと道外研修旅行を実施致しました。

2日目に今回の研修先である、熊本県・JA阿蘇の直売所「四季彩いちのみや」を視察しました。「四季彩いちのみや」は平成16年に開業し、事業費の約半分を国・県の補助金で運営しているそうです。阿蘇市は九州の中でも寒い地帯なので、果物よりも野菜が多いとの事でした。

また、直売所にはレストランもあり、昼食に九州の郷土料理である「だんご汁」を頂き、部員の皆さんはおいしそうに昼食を召しあがっていました。

3泊4日という短い間でしたが、大分・熊本・鹿児島の観光地をたくさん巡り、部員の皆さんも大変満足されているようでした。

参加された部員の皆さん、大変お疲れ様でした。

（記事・営農部営農課 遠藤由梨）

開聞岳（鹿児島県）をバックに



青年部

冬期研修会

12月14日（金）農協本所大会議室にて、部員36名が参加し、青年部冬期研修会を開催しました。

今回は初めての試みとして、部員の方に講師を務めていただき開催しました。内容は2部編成で畜産部門・青果物部門を行いました。

畜産部門では、10月に行われました全国和牛能力共進会に出場した清水孝悦氏、武田大治氏が講師となり、全共の報告を中心に行いました。「若い青年部から積極的に参加していく」と力強い言葉も聞け、最後には5年後の宮城全共への抱負も聞くことができました。

青果物部門では、ネバリスター（講師：棚沢達也氏・山内道治氏）、玉ねぎ（講師：原口直之氏・十河孝行氏）、カボチャ（講師：矢柳敏弘氏・甘利充氏）の3品目について行いました。どの品目も1人でも多くの仲間作りを目指しており、初期費用や単収など細かく説明されました。また、作業工程は生産者ならではの話も聞け、参考になったのではないでしょう。

今回の研修では、身近な人に講師を務めていただいたので参加部員・講師ともに貴重な経験だったと思います。

（記事・営農部営農課 三村太志）





褒賞授与式の様子

畜産課

北海道枝肉共励会で初入賞

12月1日、ホクレン主催「H24北海道枝肉共励会」が、また12月8日には、十勝和牛振興協議会主催「第28回十勝和牛枝肉共励会」が、(株)北海道畜産公社道東事業所において開催されました。

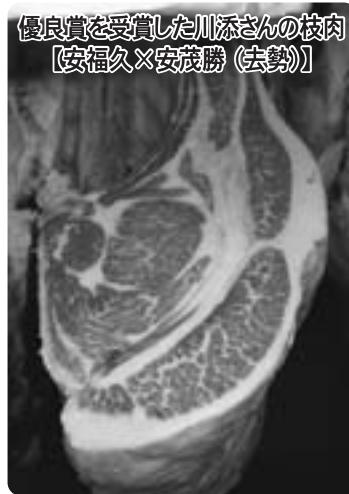
この共励会

は肥育技術向上等を目的に年1回開催。道内各地から選抜された黒毛和種肥育牛が出品され、北海道枝肉共励会では129頭、十勝和牛枝肉共励会では67頭がその肉質を競い合いました。

当JA管内からは、計6頭（北海道2頭・十勝4頭）の枝肉が出品され、北海道共励会に出品された川添保徳さん（利別）の枝肉が【A5・BMS10・枝重534kg】で見事「優良賞」に選出され、また他の5頭についても入賞は逃したものの、全てA4ランク以上の「上物」と、好成績を収められました。

近年、当JA管内の黒毛肥育牛頭数は増加しておりますが、このようなレベルの高い共励会で当JA管内から初の入賞牛が選出されたことは、今後の肥育生産に弾みがつく結果となりました。

（記事・畜産部畜産課 米川 武）

優良賞を受賞した川添さんの枝肉
【安福久×安茂勝（宗勢）】

青年部

第61回全道JA青年部大会

平成24年12月6・7日に札幌パークホテルにて第61回全道JA青年部大会が行われました。当青年部からは、私と山内会計の2名で出席。全体では約600名となり盟友の大会にかける熱い想いと一次産業である農業に対する責任感やプライドを肌で感じる事ができました。

初日の6日は、全道JA青年の主張発表大会、青年部活動実績発表大会があり両大会ともに、個人の経営、そして当青年部にとって今後の活動に多大な影響を与えてもらえた内容で、その後開かれた全体懇親会でも銀河線ブロックだけではなく十勝地区の盟友と肩を並べこれから農業青年としての課題を更に熱く語り合いました。

2日目の大会では、記念講演があり講師に慶應義塾大学経済学部金子勝教授に「国際情勢と北海道農業の展望」について勉強させていただきました。今年度から1分間CMコンテストがあり、「消費者や次世代との共生をはかる為の『地域農業』」をテーマにPRする場が設けられました。

3日目には十勝地区青協が主催で十勝産馬鈴薯と乳製品を商品として札幌市内3店舗にて店頭販売を実施、各単組の部長が店頭に立ち消費者との交流を図ると共に販売促進に尽力して参りました。私はホクレンショップ新発寒店でメークイン300kgを販売、朝7時から準備を始め9時開店でしたが午前中には完売となり十勝の農産物の重要性を改めて認識する事ができました。

（記事・青年部長 水上裕喜）





青年部

2JA青年部女性交流会開催

11月30日（金）に池田・高島両農協の独身青年農業者15名と、管内女性16名との交流会が帯広市内のインザスイート内thesoup（ザ・スープ）にて開催されました。

当日は山内会計司会進行のもと、水上部長の乾杯の挨拶で開会し、会食にて会話を楽しんでおりました。その後、数分ごとにテーブルを移動しながら自己紹介・顔合わせを行い、参加者全員との会話を弾ませておりました。テーブルラウンド終了後のフリータイムでは、緊張も解け和気あいあいとした雰囲気で楽しい時間が過ごせたことと思います。

二次会では、豪華景品を用意したbingoゲーム大会を開催し、大変盛り上がっておりました。

過去には交流会を機にお付き合いが始まり、ご結婚されたカップルもいらっしゃる事から、今後も新たにカップルができる事を願い、より充実した交流会を開催していかなければと思います。

参加者の皆様、役職員スタッフの皆様、大変お疲れ様でした。

（記事・青年部副部長 朝川知輝）

青年部

第37回JA十勝青年部大会

第37回JA十勝青年部大会が11月19日、ベルクラシック帯広にて開催されました。

当青年部は10名参加し、開会式では先日不慮の事故で亡くなった盟友に黙祷が捧げられました。

大会では、満寿屋商店杉山雅則代表取締役、帯広地域雇用創出促進協議会Togetとかち高橋司氏、

J A十勝地区フレッシュユミズ協議会伊藤由紀子会長を迎えてのパネルディスカッションが行われ、10年後の十勝について議論されました。その後、分科会の日程をこなし、閉会となりました。懇親会でのアームレスリング大会には、林雅嵩君が出場しました。

参加部員にとって大変有意義な1日になってのではないでしょうか。（記事・営農部営農課 三村太志）



開会式での様子

女性部

十勝地区女性協議会研修会

12月17・18日にかけて、十勝川温泉ホテル大平原において十勝地区女性協議会研修会が開催され、当農協女性部からは三役・各支部長が出席いたしました。

今回の研修内容は、北海道食育コーディネーターの村田歩・ナホ夫妻の食育についてと、「直近の農業情勢について」と題してJA北海道中央会帯広支所・浅野支所長が講演されました。また実技として「フラワーソープ」の制作や、夜の懇親会で各農協の女性部員と交流を深めとても楽しい時間を過ごしていました。

参加された、女性部の三役・各支部長の皆さんお疲れ様でした。（記事・営農部営農課 遠藤由梨）



支 所

金融機関強盗防犯訓練を実施しました

当組合では、平成24年11月28日（水）に池田支所にて金融機関強盗防犯訓練を実施しました。

今回の訓練では、池田警察署の協力の下、閉店時間の午後4時に模擬強盗犯が1名侵入し、可燃物を撒き散らしライターで点火すると威嚇

して模擬紙幣を奪い、自動車で逃走するという想定で実施しました。

訓練終了後には、警察署員の方に犯罪被害を防ぐための重要事項について解説していただき、防犯の意識を高めることができました。今後も、人命の安全確保を最優先とし、皆様に安心してご来店いただけるよう、防犯対策に取り組んでまいります。

（記事・金融部池田支所 竜川正之）

施 設 課

木製パレット払下終了

農産センターで使用しておりました木製パレットが破損、腐敗等で数年に渡り溜まったものを組合員へ利用願いたく払下取り纏めの結果、払下枚数の倍以上の申込があり半分程度の配分となりました。

12月14日（金）については30名の組合員に420枚の払下を実施下さいました。払下木製パレットについては有効に組合員が利用して頂けると思っております。

又、何年後かになりますが払下も実施して行きたいと思います。



（記事・農産部施設課 進藤智博）

施 設 課

平成24年産 豆手選状況報告

豆の受入につきましては9月上旬菜豆類から始まり大豆迄受入を実施しております。

平成24年産新物をユーザーより求められ9月中旬福勝金時から始まり大納言、祝黒と進み12月下旬迄福勝金時を手選しました。

年明けからは御座候(株)向けの絹手亡の手選が始まり、少し暖かくなり次第大正金時の手選を実施する計画です。

又、都合をつけて手選場等を見学したい組合員さんは是非農産センター迄お越しください。来場の際はご案内ご説明致します。

（記事・農産部施設課 鈴木耕一郎）



管 理 課

コンプライアンス研修・ ビジネスマナー研修開催

中央会岡田主査によるコンプライアンス研修



11月22日（木）から農協大会議室において、コンプライアンス研修及びビジネス・マナー研修を同時に開催致しました。

コンプライアンス（法令等遵守）は、たった一人の職員でもコンプライアンス違反をすることで、一瞬にしてJAへの信頼が揺らぐことに繋がってしまうため、全職員が理解・実践されなければなりません。そのため、全職員の出席を目指し、午前・午後・業務終了後など、都合4回の開催となり職員70名の研修となりました。

（1）コンプライアンス研修

「コンプライアンスを正しく理解」

講師：中央会帯広支所 岡田主査

今回の研修では、職員への事前アンケートにより当JAのコンプライアンス上の課題や傾向について集計・分析し、その具体的な対応について重点的に研修しました。

（2）ビジネス・マナー研修

「ビジネス・マナーは初心に戻って」

講師：管理部職員 斎藤しいな・荻 悠哉

ビジネス・マナー研修では、管理部若手職員が講師となって、組合員を始めお客様への応対や組織内部の職員同士の応対など、具体的な事例や設問を交え研修しました。



相手さんそんな敬語ありますか？

設問では日頃から使い慣れない言葉もあり、指名された職員も設問への回答に苦慮する場面もあり、改めて言葉の難しさを認識しました。

しかし、マナーは表面上の言葉だけではなく、心のこもった丁寧な言葉や相手を敬う姿勢が最も大切であり、入組した頃の新社会人としての心持を思い出す契機となりました。

（記事・管理部長 大塚 節）

J A ネットワーク十勝の動き

組合員の皆様に、ネットワーク事業の推進状況をご報告申し上げます。

1 生産・販売の強化について

- 十勝農業ビジョン2016を策定し、十勝農業のブランド化・高付加価値化・ファンづくりの推進と安全安心で高品質な農畜産物の安定供給に努め、経営管理の高度化と生産性の向上により農業所得の向上を図るとともに、豊かで潤いのある地域社会の発展を目指すことを基本姿勢とし、5年後の農業生産額の目標を2,900億円としました。
- 安全安心の取り組みとして、農産物の生産履歴の記帳と残留農薬自主検査を継続し、万一の場合の対応方法を定めた「十勝管内統一ルール」を運用しています。
- 今年で3年目を迎えた「十勝型GAP（農業生産工程管理）」はすべてのJAが取り組み、これにより管内JAの農産物安全安心対策は、生産履歴・残留農薬自主検査・十勝型GAPの三本柱で担保するシステムが整備されました。また、今年からJA組合長会と連携し管内全体が足並みを揃えて推進する体制となりました。今後は内容の充実を図るとともに、独自の十勝型GAP認証制度について検討を進めます。
- 系統飼料の利用による肥育体系を確立し、管内の和牛肥育を振興するために、和牛肥育振興対策事業を生産者・関係団体の協力の下に実施しています。3期9年が経過しましたが、来期からは肥育開始時の指導体制等を充実し、肥育成績の向上に取り組みます。

2 JA経営の強化について

- 平成23年度のJA財務状況については、すべてのJAが主要なネットワーク基準を満たしています。また、担保評価マニュアルの制定に伴うネットワーク自己査定基準の改正を行いました。
- 平成22年度に策定しました「管内JA全体の経営戦略」に基づき、優秀な職員の確保・育成のために、ホームページによる管内JA職員採用情報の提供と道内大学に対する就職説明会の実施、担当職員の登録と研修の充実、営農指導員などの資格取得の推進に取り組んでいます。また、営農指導の強化のために、営農指導スキルアップ研修と農業簿記税務基礎研修を実施しています。

今冬、ご家庭でも節電対策を!

～酪畜産業への影響回避～

1. 今冬の節電目標【引き続き7%以上の節電を!】

国の「電力需給に関する検討会合・エネルギー・環境会議合同会合」におきまして、計画停電を含む非常事態を最大限回避するための需給対策が、まとめられました。これによりますと、北海道では、平成22年度と比較して7%以上を節電し、国から示された電力需給対策達成に取り組むこととなりました。

北海道の電力需要は、冬期に入り更に厳しくなります。これは、暖房・融雪機器の稼働により、電力使用量が大きくなるためです。

夏季と比較した場合、電力量全体では125%、特に、家庭用電力では160%と大きく増加します。

電力需給が最も厳しいことが見込まれるのは、下記の期間及び時間帯です。

電力需給逼迫が予想される期間及び時間帯	
12月10日(月)～12月28日(金)の平日	午後4時～午後9時
1月7日(月)～3月1日(金)の平日	午前8時～午後9時
3月4日(月)～3月8日(金)	午後4時～午後9時



2. 節電の必要性【厳冬期の計画停電は、酪畜産業・人命にも影響】

この時期、北海道では農作業はありませんが、酪農・畜産経営においては、毎日の搾乳に欠かせない搾乳機器・バルククラー、家畜への給餌作業、更には、秋に入庫された農産物の調整を始め青果物の選別・予冷施設の稼働時期でもあり、十勝の農業にとって電力の供給は必要不可欠です。

更に、厳冬期となる北海道で計画停電により電力供給が停止すると、暖房設備も停止し、ご病人・お年寄り・子供など生命の危機にも繋がります。

3. JA・JAグループ北海道節電対策【JAでは15%の節電達成】

そのため、万が一にも計画停電とならないよう、JAグループ北海道は今夏に引き続き、平成22年度対比7%以上の節電対策に取り組みます。

当JAでも、本年6月から、照明の消灯・蛍光灯の間引き・電化製品の待機充電カット・パソコンの省電力モード設定・自動ドア開放など各種節電対策を実施しております。

その結果、6月以降のJAの電力使用量は、平成22年対比85%となっており、毎月15%程度の節電を達成しております。(農産センター施設を除く)

今後も、照明機器のLED化なども検討し7%以上の節電に取り組んで参ります。

引き続き、ご来所の組合員の皆様並びにお客様には、ご不便をお掛けすることもございますが、当JAの節電対策にご理解・ご協力頂きますようお願い申し上げます。

4. 組合員の皆様へのお願い「ご家庭でも節電を！」

(株)北電が配布するパンフレット記載の節電方法に取り組んだ場合、標準的なご家庭の例では、電気料金のご負担が1月あたり15%程度軽減されること。

是非、組合員の皆様のご家庭でも「今冬、7%以上の節電」にお取組み頂きますよう重ねてお願い致します。

指導チーム通信

▶ 次年度に向けた取り組みについて～馬鈴薯対策強化～

小麦の定点調査の継続など既に一部作物で次年度に向けた取り組みをスタートしていますが、馬鈴薯に関しては生産組合での栽培基準緩和対策や生産性向上に向けての取組などを強化していく方針です。

具体的には24年度から継続するものもありますが、そうか病に代表されるいも肌と品質、依然高い小玉発生比率などの解決に向けて資材試験、肥料試験を計画しています。

2月から行われるそれぞれの生産組織での総会において、取り組むべき課題の洗い出しと対策の検討を行い、指導チームと生産組織とが連携を強めた活動を次年度に向けてスタートさせていきます。



24年P H矯正資材・試験区



24年P H矯正資材・慣行区

▶ 多くの提出ありがとうございます! ~土壤診断実施状況について~

先日実施致しました土壤診断の申込に40件186圃場の土壤サンプルを提出頂きました。断続的な降雨によりサンプル採集も困難であった状況でしたが、たくさんの提出ありがとうございました。これから隨時検査が行われ、結果が戻る2月と3月に施肥相談会の開催を予定しています。当JAの土壤診断実施率は管内でも上位にあるようですが、畠の健康診断として今後とも定期的な取組を宜しくお願ひ致します。土壤診断結果に基づく適正施肥により経費節減と環境への配慮に取組みましょう。



施肥相談会の様子

▶ 早めの準備をお願い致します! ~取りまとめのご案内~

○融雪資材の取りまとめ

既に12月にまとまった降雪が数回あったことからも推察されますが、今冬は全道的に平年より降雪量が多くなる見込みです。今後全道的に防散融雪タンカルなどの融雪資材の需要が増加、逼迫することが予想されますので、取りまとめによる資材の早期確保が必要となります。25年産きたほなみは雪腐病防除を良い条件で実施できた圃場も少なく、春先の融雪作業も重要性が高くなりますので、「使いたいけど資材がない」状況を避けるためにも取りまとめでの申込を宜しくお願い致します。

○早期農薬取りまとめ

当用期の95%、重点20品目は当用期の90%という内容で農薬の早期取りまとめを実施します。農薬価格は加重平均で0.06%の値下げとなっていますが、今回の取りまとめでは5~10%の農薬費節約となる大きなチャンスです。普段は当用期に薬剤準備をされている方も是非この機会をご利用ください。なお、詳細は本号と同封されている「平成25年度早期農薬取りまとめ」を参照願います。

おかげさまで創刊85周年。



これからも、

「食」と「農」の情報紙で
あります。



THE JAPAN AGRICULTURAL NEWS
日本農業新聞

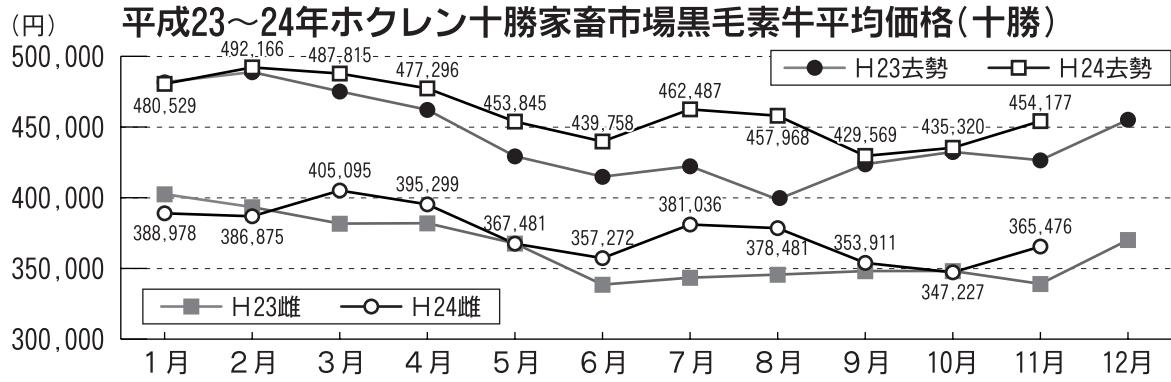
<http://www.agrinews.co.jp>



広げよう読者の輪 進めよう協同活動 相合員・JA 情報共有運動



畜産部通信 畜産部 畜産課



11月黒毛素牛出荷区分別成績

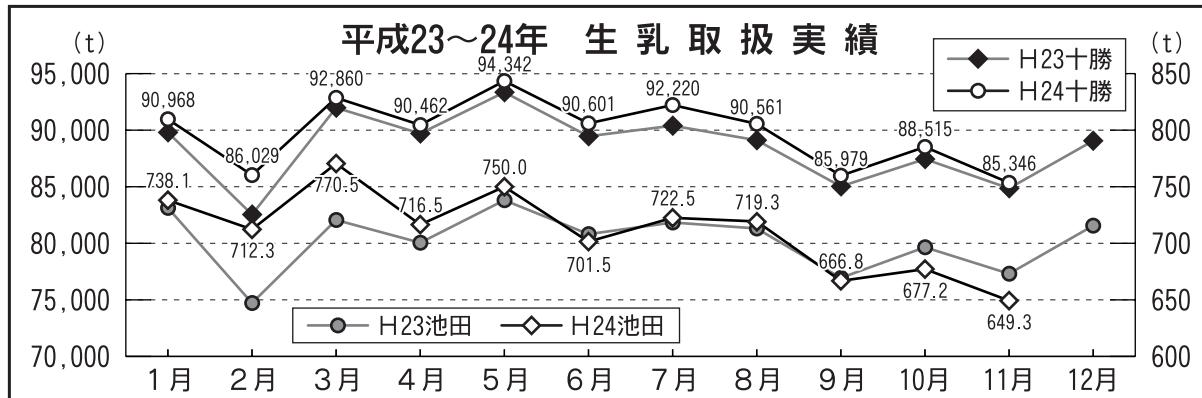
【金額(円)】

		取引頭数	平均価格(税込)	参加率・認定率
去勢	和牛素牛	735	454,177	
	マニュアル参加牛	401	466,677	54.6
	マニュアル認定牛	163	496,180	22.2
池田	和牛素牛	41	475,138	
	マニュアル参加牛	32	478,275	78.0
	マニュアル認定牛	19	495,545	46.3
雌	和牛素牛	593	365,476	
	マニュアル参加牛	353	374,457	59.5
	マニュアル認定牛	89	401,478	15.0
池田	和牛素牛	34	363,269	
	マニュアル参加牛	29	357,072	85.3
	マニュアル認定牛	6	361,900	17.6

11月ホクレン十勝枝肉市場

【金額(円)】

開催日	区分	取引頭数	平均価格(税込)
10日	黒毛去勢	A-5	1,884
		A-4	1,769
		A-3	1,611
17日	黒毛メス	A-5	1,851
		A-4	1,755
		A-3	1,599
24日	F1去勢	B-3	1,060
		B-2	939
		B-3	1,058
	F1メス	B-2	951



11月ホクレン十勝乳牛市場

【金額(円)】

開催日	区分	取引頭数	平均価格(税込)
5日	乳牛育成	636	272,222
7日	乳牛初妊	566	478,036
	乳牛経産	116	252,733
27日	乳牛初妊	628	487,809
	乳牛経産	148	250,531

11月十勝中央家畜市場

【金額(円)】

区分	平均価格(税込)
乳牛オス初生	26,790
F1オス初生	130,109
F1メス初生	70,403
廃用牛	84,673

▶肉用子牛生産者補給金制度について(パートIV)――

今回は、制度に係る取扱いについて解説します。

生産者積立金の残額の処理

生産者積立金は生産者が納付した負担金、機構及び都道府県からの助成金によって積立てられており、交付金に充てる場合を除き、処分ができないことになっています。

しかし、業務対象年間（5年）の終了時において、残額がある場合は、生産者積立準備金に繰り入れしたうえ、生産者ごとに持分額を決定し返戻することができます。

いかなる場合であっても、業務対象年間の途中での返戻はできることになっています。

生産者補給金の返還等

契約生産者が不正受給した場合や、次に該当する場合は、交付金の返還対象となります。

- ア. 交付契約申込書、個体登録申込書及び販売・保留確認申出書に虚偽の記載をしたとき。
- イ. 協会への報告の怠り、又は不実な報告をしたとき。
- ウ. 契約した法人が、肉用子牛の生産者要件を欠いたとき。
- エ. 乳用種雌牛について、肥育仕向け措置が講じられていない事実があったとき。

本制度に係る税制上の取扱い

ア. 生産者負担金の扱い

個体登録の申込時に納付する負担金は、所得の金額の計算上、必要経費及び損金に算入することが認められています。

消費税についても非課税の扱いとなっており、課税仕入れとはなりません。

イ. 生産者補給金の扱い

協会から交付される補給金は、当該肉用牛の売却価格に加算し、その一部として扱われ、肉用牛の売却による農業所得課税の特例適用を受け、免税及び損金算入が認められています。

自家保留した後に、売却した場合も同様です。

売却せず事業用（繁殖用）に転用した場合は、雑収入として処理します。

加入促進

本制度は、牛肉の輸入自由化により国内の牛肉価格が低下することが予想され、このため、肥育農家は肥育牛の販売価格低下をその原材料たる肉用子牛の購入価格に転嫁せざるを得なくなり、その水準は再生産を確保しうる水準以下となることが危惧されることに対応して、特別に措置された制度。

よって

発動がなくとも、価格低落時に安心した経営が行えるよう備えましょう。
子牛が生まれたら出生報告と補給金への加入を忘れずに。

次回は、事務手続きについて紹介します。

理事会の動き

第 10 回
〈平成24年12月26日〉

★ 報告事項 ★

- (1) 組合員の加入及び脱退について
- (2) 豆の集荷状況について
- (3) 組合財務の現況について
- (4) 11月末基準仮決算について
- (5) 余裕金運用状況報告並びに保有目的区分について
- (6) コンプライアンスプログラムの取組状況について
- (7) 事業評価制度評価結果について
- (8) 内部審査及び内部監査報告について

★ 議 案 ★

- (1) 組合員の出資金持分譲渡並びに新規加入承認願いについて
- (2) 組合員資格変動並びに出資金持分減口承認願いについて
- (3) 自治監査の報告について
- (4) 資産査定基準について

★ 協 議 案 ★

- (1) 総会までの行事日程について
- (2) 平成25年度経営方針及び重点項目（案）について
- (3) 平成25年度固定資産取得計画（案）について
- (4) 第6次地域農業振興計画の素案について
- (5) 冬期地区懇談会の開催について
- (6) 年末組勘整理の見込みについて
- (7) 役員定数について

今月の1枚



♪ 猫も喜ぶ!? ドライフラワー♪

今月の1枚は、12月17・18日に開催された、十勝地区女性協議会研修会での1枚です。

研修会の加工品・フラワーハーモニーでの展示品で、この作品は当農協女性部長の以頭久美子さんが制作したドライフラワーです。

現在、以頭さん宅では猫を飼っているそうで、制作後の置き場所に困った！と笑ってお話し下さいました。

1年はあつという間に過ぎ、平成25年になりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか？

年末年始とイベント続きで体調はいかかでしょうか？ 飲みすぎ、食べすぎにはなっていないでしょうか？ 私は数年前、正月の3日間で5キロも体重が増えてしまいました…。そして、これがなかなか減ってくれないですよね。何かと宴会が多い季節でもあります。気をつけてはいるものの、つい飲んで食べて…人間の欲というものは強烈なものですね。さて、今年も1年健康でよい年となることを願っています。（M）

編
集
後
記